

みのげこばやし
蓑毛小林遺跡

秦野市No.154

調査期間 2019年9月1日～2020年1月15日
所在地 秦野市蓑毛
時代 近世、中世、奈良・平安、縄文、旧石器
調査原因 中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
遺跡位置 小田急小田原線秦野駅から北方約3.6km、丹沢山地から続く南向きの緩斜面上



主な調査成果

弥生時代以前、蓑毛小林遺跡には2つの尾根状地形と、これらに挟まれた緩やかな谷状地形がありました。これまでの調査から、2つの尾根状地形の上では旧石器時代から縄文時代草創期にあたる膨大な量の石器が出土し、4～5面の生活面が確認されていました。令和元年度の調査ではこれらとは別の縄文時代草創期でもより新しい時期の石器が出土し、蓑毛小林遺跡としては初めてこの時期の縄文土器が出土しました。このほか、中世から近世の「地下式坑」（地下室）も検出されました。一部は調査区外に広がることから正確な数は不明ですが、複数の地下式坑が西側にまとまって構築されている状況が確認できました。



1. X区d ローム層漸移層～L1S層相当層上部層
遺物出土状況



2. X区d ローム層漸移層～L1S層相当層上部層
有舌尖頭器出土状況



3. X区d ローム層漸移層～L1S層相当層上部層
縄文土器出土状況



4. X区a 中世～近世 C11号地下式坑 完掘状況